

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人黒木学園 認定こども園徳力団地幼稚園

1. 本園の教育目標

個性を発揮しながら 豊かな遊びを通して 自分らしく生きる力を育む

目指す幼児像 <命を大切にすることも> <考え行動する子ども> <夢中になって遊ぶ子ども> <思いやりのある子ども> <互いに協力する子ども>

「遊びの中からすべてを学ぶ」という創立者の理念を引き継ぎ、幼児一人一人の個性と思いを大切に、たくましく生きる力の基礎を育む保育の創造を目指す。

2. 本年度の重点目標

- ①効率的な働き方の中での、よりよい保育の実践
- ②幼児が地域との交流を楽しみ、互いに大切にしようとする保育の実践

3. 評価項目の取組と成果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

自己評価結果の総括表

重点的に取り組む目標 ①	評価項目	評価指標及び評価結果					総括評価	意見・説明	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標			成果結果
効率的な働き方の中での、よりよい保育の実践	限られた時間の中で効率的に業務を行ったり、保育の工夫をしたりして、園児、職員が生き生きと過ごせるようにする	4	時間を有効に使うことで、よりよい保育を考えたり提供したりすることが出来るようになる	3.3	4	長期的な計画、早期の取り組み、職員間の共有、協力により、幼児の姿を理解し明確にねらいをもった活動が行えるようになった	3.3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園務分掌、役割分担、行事担当などは年度始めに立てられ各職員が自覚と責任、先の見通しをもちながら活動の準備を進められるようになってきた。 ・職員間の情報の共有、伝達、協力体制は深まっているが時間配分や優先順位を考え行動すると更に効率よく業務が行え、保育の振り返りや準備等を充実させられると思う。 ・業務内容を精査し、環境準備、教材研究、園内研修等の時間を設け、職員のやりがいにつなげていきたい。
		3	業務の優先順位を考え行うことで、日々の保育をしっかりと振り返り幼児の姿から明日への保育へつなげることが出来る		3	効率よく業務を行うことで生じた時間で、職員間で保育を振り返ったり幼児の姿を共有したりすることが出来るようになった			
		2	役割りに自覚をもち、日々の業務や行事準備などに早期に取り組み、職員間で共有したり協力したりする		2	自分の役割に責任をもち、早期に取り組んだり職員間で協力して行ったりすることが出来るようになった			
		1	園務分掌、役割分担表、年間計画、学期案、月案を早期に作成し、業務や活動に長期的な見通しをもつ		1	園全体の業務や年間行事、各自の担当などを知り、自分の役割や園の活動に見通しがもてるようになった			

重点的に取り組む目標 ②	評価項目	評価指標及び評価結果					総括評価	意見・説明	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標			成果結果
幼児が地域との交流を楽しみ、互いに大切にしようとする保育の展開	新たな出会い、触れ合いの機会を通し、地域に開かれた園となり、地域で子どもを育てるという意識を発信できるようにする	4	地域の人に喜ばれたり役に立ったりすることを幼児と考える機会をもち、活動したことを地域に発信する	3.7	4	幼児が「地域や人を大切にしたい」という気持ちをもつようになり、活動したことを広く発信するようになった	3.7	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざした交流活動も2年目となり、新たな取り組みが園内外で行われ充実しているを感じる。 ・年間を通して地域の人と継続して交流の機会をもち、回数を重ねるごとに親しみが増していた。今後も年齢に合わせた関わり方を模索していきたい。 ・地域の人との触れ合いや活動の温かい交流の中で、子ども達は貴重な体験を重ね、自信や優しさ、積極性をもって人と関われるようになってきた。
		3	交流を重ね親しみをもつことで、幼児が「地域の人に大切にされている」という気持ちをもつようになる		3	幼児が地域の人とつながり親しくなることで、地域の中で生活している、大切にされていると感じるようになった			
		2	地域の催しに積極的に参加したり地域に人を園の行事や活動に招いたりして、互いに親しみがもてるようにする		2	幼児が地域の催しに参加したり、地域の人と園で交流したりすることを喜び、親しみをもって接するようになった			
		1	日常の散歩、園外活動に積極的に出かけ、地域の人と挨拶や言葉を交わし、関係が築けるようにする		1	幼児が園外活動を楽しむ中で保育者の姿を見ながら進んで挨拶が出来るようになった			

4. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
① 保育内容、業務の共通理解を図る中での、質の高い保育の実践	正規・非正規にかかわらず、保育内容や日々の業務の進め方について連携をとったり園内研修をしたりして共通理解を図り、知識や技術の習得を目指す。その中で効率よく業務を進め、よりよい保育の工夫をしたり働き方改革を進めたりして、園児も職員も生き生きとした環境で過ごせるように努める。
② 地域との交流を楽しみ、人を大切にし、地域に愛される園となる保育の実践	一昨年度の地域の人や施設との出会いをきっかけに、昨年度は互いに交流をもつ機会を多く設けることが出来た。園や幼児が地域にとって身近な存在となってきた。今年度もさらに新たな出会いや交流がもてるべく、また幼児が進んで人と関われるよう、学年に応じた活動を年間を通して考え実践していく。

5. 実施内容

No.	内容	期日
1	第1回 学校関係者評価委員会 ・委員紹介 ・本年度重点目標の説明	令和6年6月20日(木) 13:00~14:00
2	第2回 学校関係者評価委員会 ・運動会参観、講評 ・保護者アンケート実施	令和6年10月5日(土) 9:00~12:00 令和6年10月中旬
3	第3回 学校関係者評価委員会 ・公開保育、講評 ・自己点検、自己評価実施	令和6年11月28日(木) 10:00~12:00 3月上旬
5	第4回 学校関係者評価委員会 ・今年度考察、評価 ・令和7年度の重点目標設定	令和7年3月17日(月) 13:00~14:00

6. 学校関係者評価委員会の評価

昨年度に引き続き地域との交流を通して子ども達の心身の成長を願う、というねらいをもった活動が今年度は更に様々な形で展開されていたように思う。地域に愛され根差した園となっているようで嬉しく思う。今後も互いに大切な存在として、地域で子どもを見守り育てるという意識をもってもらえるように引き続き交流活動を期待している。

様々な活動が推進されるために、準備や会議に費やす時間が増えていることと推察される。効率のよい業務体制や内容の精査をしながらよりよい保育を考え進めるとい課題に向き合い、保育者のやりがいにつなげて欲しいと願っている。

次年度も子どもたちの健康に留意しながら、創立者の理念でもある「遊びの中で子どもが育つ」ということに真摯に取り組んでほしい。

学校関係者評価委員
学校関係者評価委員
学校関係者評価委員

委員会実施日

令和 7年 3月 17日